

2006年4月7日プレスリリース
山口情報芸術センター(YCAM) presents

エキソニモ(exonemo) / 新作インスタレーション展

「WORLD B / 意識を裏返し、B面をPLAYせよ」



日時：2006年4月22日(土) ~7月9日(日) 12:00~19:00 ※火曜休館

会場：山口情報芸術センター スタジオB、ホワイエ、中庭ほか

入場無料

<http://EXONEMO.COM/B/>



エキソニモ (exonemo) / 新作インスタレーション展 「WORLD B / 意識を裏返し、B面をPLAYせよ」

日時：2006年4月22日(土) ~7月9日(日) 12:00~19:00 ※火曜休館
会場：山口情報芸術センター スタジオB、ホワイエ、中庭ほか
入場無料 <http://EXONEMO.COM/B/>

プロジェクトキュレーター：阿部一直 (YCAM)
主催：財団法人山口市文化振興財団 後援：山口市、山口市教育委員会
製作協力：YCAM InterLab 企画制作：山口情報芸術センター
助成：芸術文化振興基金

山口情報芸術センターでは、アートユニットのエキソニモ (exonemo) による新作インスタレーション展「WORLD B / 意識を裏返し、B面をPLAYせよ」を開催します。

情報技術のもたらす最も興味深い部分の一つは、ユーザーアクセスとインタラクションのプロセスの関わりが、どれだけ魅力的に展開していくかにフォーカスすることができます。エキソニモの提案するアートプロジェクトにおける様々なインタラクションには、つねに何らかの新しい視角や発見があります。ニューメディア~オールドメディアを柔軟に横断しつつ、創造的な一種のユーモアや手作り感覚と同時に、技術社会とユーザーとのスタンスをつねに意識させる、予想を覆す批評性やメディア倫理の思考がそこには浮かんでいます。今回は、彼らの活動10周年を期に新作を中心にした3作品の展示、ワークショップなどで構成した総合的な展覧会になります。

エキソニモは、男女2人によるアートユニットで、これまでの活動では、主にメディアテクノロジーやネットワークを駆使しながら、等身大の技術感覚や、独特のメディアミックスのセンスを効かせたアートプロジェクトを多数発表してきました。近年、国際的な舞台での活躍も多く、ネットアートやLIVEイベント、メディアアートのインスタレーションなどによって、メディアシーンの各方面から注目されている存在です。

■ 「WORLD B」とは

今回の展覧会タイトル「WORLD B」がイメージするものとは、たとえばレコードの「A面」に対する「B面的な世界観、つまりオリジナルA面ソングに対するリミックス的なもの」といってもいいでしょう。言い換えれば、マーケティングされマス認知を目的にしたA面的な消費カルチャーに対し、B面的な世界は、表層的コンテンツやそれを可能にする情報技術のシェアを前提にしつつも、現代のネット社会特有のアノニマスな主体どうしが集合して形成される、よりオープンな方向性を持った社会性や関係性を意味します。オープンソース、フリーソフト、コピーレフト、コンテンツのリサイクルやソフトやハードの改造(サーキット・ベンディング)などの、社会的良性的な創造的ハッキング行為や新しい方向性のシェアカルチャーを示唆したネーミングと言えるかもしれません。考えてみれば「B」とは、B(ブラック)ミュージックであり、ウエスタン映画や低予算映画を意味するBムービー、かつまたカタログ落ちリサイクルのBスタンプ品…、とこれまでのサブの側面が裏返され、反対に創造的主流となる世界=「B」ワールド。その連想は、果てしなく続きます…。

■ 展示作品解説（今回の展示は3作品です。）

1) 「OBJECT B」 → スタジオ B

[電動工具を組み合わせた特殊なPC入力装置によって、操作されるゲーム・キャラクター。実空間とバーチャル空間での両方で起こる現象が、展示会場を軸に同期/非同期する。]

開発環境がオープンにされている3Dシューティングゲーム「Half-Life2」（販売：サイバーフロント）を、ソフトウェア母体として改造し、シューティング性を排除して、バーチャルアート空間としてハッキングする新作。このバーチャル空間内では、ユーザーがインターフェイスで、自由にオブジェの数や位置をコントロールしますが、同時に空間の重力をコントロールすることができます。ユーザーの傍らには、電動器具や家電が設置されており、突然オートマチックに動きだしますが、その振動はランダムにバーチャル空間内のオブジェに直結されて、それらが動き出す仕組みになっています。この作品は、展示空間以外からもネットワーク経由で館内カフェやウェブからも参加可能です。

2) 「SHI KA KU NO MU KO U (しかくノムこう)」 → ホワイエ

[ある特殊なドローイング・ソフトウェアをつかい、ある特殊な条件でドローイングを描く体験作品。視覚と聴覚、記憶と再現の間のスイッチング&スケッチング。]



昨年リバプールのアートセンターFACTで初公開された作品の改訂バージョン。「描く」行為にまつわる視覚と聴覚の描写環境を寸断し、「描く」こと自体のダイナミズムを自己の身体で感覚し直す作品。タイトルには視覚の向こう/無効の2重の意味がかけられています。

[以下はオフレポートです]
「SHIKAKUNOMUOU」は2つの部屋とWebとが接続されたインスタレーションです。

第1の部屋のインスタレーションでは、コンピュータとペンタブレットによるドローイング環境があり、観客が自由に好きな絵を描くことができますが、参加者が絵を描こうとした瞬間、画面と部屋の明かりが消え視覚情報が奪われてしまいます。そして暗闇の中でペンの動きに連動した音が鳴り始めます。ユーザーは突然切り替えられる感覚に戸惑いながらも暗闇の中で絵を描く事になります。第2の部屋では、参加者が描いているときに自ら見ることができなかったドローイングのモーションが拡大してプロジェクションされ、その動きがループし再現され続けます。

ウェブでは、第1、第2の部屋で展開されたドローイングが時間軸にそってアーカイブされています。Web経由で訪れた訪問者は、インスタレーションでの体験から抽出された奇妙に走るドローイングのストロークだけを鑑賞することになります。

3) 「REAL SPACE IN VEDA」 → 中庭

[PC のデスクトップ画面上に飛来するサウンド・オブジェクト「Space in Veda (2000/2005)」の実体化インストール。WEB からのコントロールで音を変化させながら、実空間を淫靡の響きで満たす!!!]



原作品はウェブで公開中の作品「Space in Veda (<http://exonemo.com/SiV/>)」(NTT DATA 主催バナープロジェクトで初公開)。様々なサイトに仕掛けられたバナーをクリックすると、バナーと同サイズのウィンドウが複数デスクトップ上に現れ音を生成しながら飛び回り、ユーザーのデスクトップを侵略してしまうというもの。これを基に、新バージョン「Real Space in Veda」では、ウィンドウを看板型のオブジェとして実体化させ、YCAM の中庭空間をサウンド

で充たします。サウンドとビジュアルはウェブ上のユーザーの操作によって変化し続けます。サウンドはいくつ重ねられてもヴェーダのような調和を確保します。タイトルは、「空間を侵略する者」という意味、最初期のコンピュータゲーム「スペースインベーダー」、そしてインド音楽の「ヴェーダ (吠蛇)」の、3 つの意味が多重に掛けられています。(技術協力：クワクボリョウタ、工作協力：西形友三郎、大畑彩)

■ 関連イベント (予定) ※詳細・決定事項はウェブにて発表いたします

① アーティストによるギャラリートーク

[アーティスト自身による作品解説、デモンストレーションツアー]

日時：4月22日(土)14:00~15:00

会場：スタジオ B~ホワイエ~中庭 参加無料

② アーティスト・ワークショップ

[小学生対象のおもちゃの中身の改造(サーキットペンディング)で新しい楽器を作ってみる]

日時：5月5日(金)~6日(土)(2日間通し) 時間未定

会場：創作学習室 ※申込制(※詳細はウェブにて発表いたします)

③ アーティストレクチャー

[アーティストによるこれまでのアートプロジェクトについての紹介レクチャー]

日時：5月7日(日) 15:00~16:30

会場：創作学習室 入場無料

④ ギャラリーツアー

[YCAM 教育スタッフによる作品背景解説&作品ツアー]

日時：会期中の毎日曜日 14:00~14:45 (※事情により中止する場合があります)

参加無料 ※申込制

⑤ 今回の展覧会のデータフライヤーとして製作した CD-ROM を、会期中限定配付します。

■ アーティストプロフィール

エキソニモ (exonemo)

1996 年結成。千房けん輔と赤岩やえによるアート・ユニットとして、www.exonemo.com を拠点に活動を開始する。ウェブ上でしか体験できない実験的プロジェクトを数多く手がける。2000 年以降は、国内外の展覧会でのインスタレーション作品の発表や、ライブパフォーマンス&オーガナイズなども頻繁に行なっている。「アルスエレクトロニカ 2000」(アルスエレクトロニカフェスティバル、リンツ、オーストリア、2000 年)、「BUZZ CLUB: news from Japan」(p.s.1、ニューヨーク、US、2001)、「イスタンブール・ビエンナーレ」(イスタンブール、トルコ、2001 年)、「In Media Sockets」(山口情報芸術センター、山口、2003 年)、「六本木クロッシング」(森美術館、東京、2004 年)、「ROCK THE FUTURE」(FACT、リバプール、イギリス、2005 年)など出展。

<http://exonemo.com/>

<山口情報芸術センター(YCAM)へのアクセス>

■山口宇部空港から

- ・乗合タクシーで YCAM まで 約 1 時間(1500 円)
※前日 18:00 までに予約が必要 大隅タクシー 0120-31-0860
- ・空港連絡バスで JR 新山口駅まで 30 分(870 円)

■JR 新山口駅から

- ・JR 山口線湯田温泉駅下車、徒歩 20 分/タクシー 5 分
- ・JR 山口線山口駅下車、徒歩 20 分/バス 10 分(中園町か済生会病院前下車)/タクシー 5 分
- ・防長バス 25 分、中園町下車

■自動車利用

- ・山陽自動車道で防府東 IC から 30 分・九州・中国自動車道で小郡 IC から 15 分

<お問い合わせ>

山口情報芸術センター (担当: 渡部)

〒753-0075 山口県山口市 中園町 7-7

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216

E-mail: information@ycam.jp <http://www.ycam.jp/>